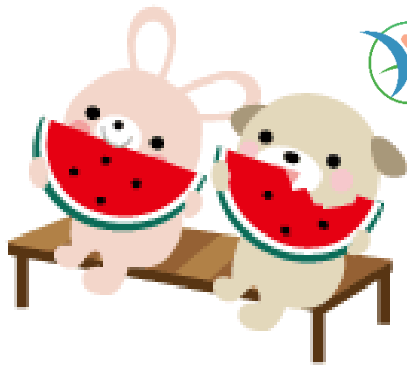
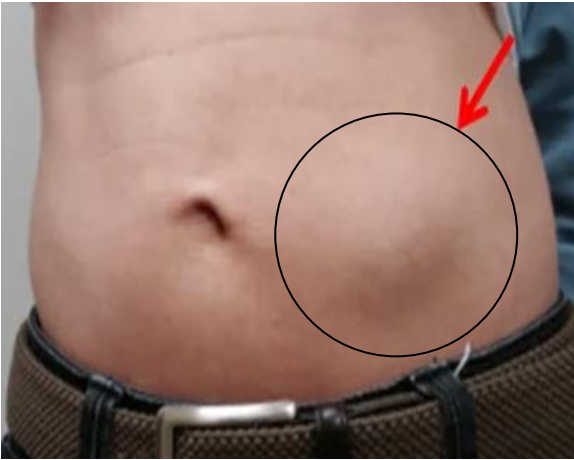




インスリンボールを知っていますか？

インスリンボールは、皮下の脂肪細胞がインスリンに反応して増大し、ボールのように皮下硬結を形成するタイプとインスリンを形成するタンパク質が皮下で変性しアミロイドを形成して2～5cmの塊となるタイプがあります。



なぜインスリンボールに注意が必要なのか？

インスリンボールに針を刺して注射すると、薬が皮下で吸収されてしまい、うまく血液の中に入りません。インスリンが全身に運ばれにくくなると、血糖のコントロールが悪くなり、必要なインスリン量が多くなってしまいます。また、インスリンボール内への注射は痛みを感じない為、そこに反復して打ってしまい悪循環となります。



インスリン自己注射を正しく行うために

★皮膚をつまんで打つ

インスリンは皮下組織に注射することでほどよく吸収されるように調節されています。深く刺して筋肉に注射してしまうと、吸収が速くなりすぎてしまいます。（痩せている場合、つままなくていい事もあります）

★針は1回使ったら捨てる

1回刺した針をまた使うと感染の原因にもなります。針が鈍くなっているので痛みも強くなります。

★保存方法と使用期限を守る

★故障した器具を使わない

治療効果を十分に発揮させる為に正しい情報を見分けて利用していくことも必要です！



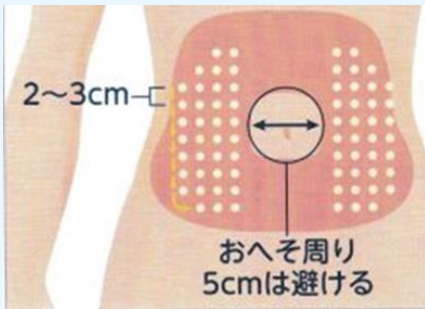
インスリンボールができるのを防ぐには

★インスリンボールがないかをこまめにチェックする

早く見つけてよけて打つことで、大きくなることを防げます。

★注射する場所を少しずつ変える

同じ場所に続けてインスリンを打たない、打つ場所を変えるなど正しくインスリンを打つことです。注射する場所によって薬の吸収される速さ（腹部への自己注射が一番安定した吸収が出来るかとされています）が違うので、正しい範囲をローテーションする必要があります。



文責：薬剤部 大野・植上・大谷